

■ 野外活動のための安心・安全講座

「自分だけは大丈夫」と思っていませんか？ ～正常性バイアスと事故・災害～

1. はじめに

スカウト活動を行う際は、「あらかじめよく考えておく」、すなわち事故につながる場面を想定した準備を行うことが安全対策として重要です。また、これまで『野外活動のための安心・安全講座』に掲載された事故の事例を参考に、事故が起こった場合の対応策、ルールを考えておくことも重要です。スカウト活動に限らず、日常生活の多くの場面で、事故や災害に遭遇した場合を想定して避難訓練などの安全対策や避難指針などの対応策、ルールが策定されています。そのような状況にも拘らず、災害の規模が大きくなってしまふことがあります。それはなぜでしょう？

2. 心のメカニズム（無視と過小評価）

「正常性バイアス」という言葉をご存知でしょうか？ バイアス (bias) とは、傾向、偏向、先入観、データの偏り、思い込み要因、情報の偏りによる認識の歪みを意味します。例えば、全国の世論調査を行う場合に、ある地域の、ある特定の年代に対してだけ調査を行うようなことがあれば、本来の結果から偏った結果になってしまいます。このような場合のデータ（調査）の偏りをバイアスと呼んでいます。「正常性バイアス」とは心理学の用語で、人間の判断や認知、意思決定における恣意的なバイアスの一つで、自分に都合の悪い情報を無視したり、それを過小評価したりしてしまう心理的な特性を指します。事故や災害が起きた際に、「ありえない」、「自分（たち）は大丈夫」、「今回は大丈夫」、「まだ大丈夫」と考えることが「正常性バイアス」といわれています。過剰に反応してパニックにならないための心のメカニズムで、人間の心のある程度まで平穏に保つために必要な反応ですが、度がすぎると、回避行動や避難行動の遅れにつながるということが指摘されています。

普段のスカウト活動では、新しいプログラムよりも、これまでに何度も取り組んでいる慣れたプログラムの方が「正常性バイアス」に入り込みやすいかもしれません。何度も実施しているので事故など「ありえない」、慣れたプログラムなので「自分（たち）は大丈夫」、これまで何も起こらなかったで「大丈夫」。危険な場面に遭遇しても、とっさに回避行動を取れるくらいまでになっていれば良いのですが、そうでなければ「正常性バイアス」によって対応が遅れることがあるかもしれません。

3. 日頃の訓練の大切さ（やはり、そなえよつねに）

令和3年5月20日に災害対策基本法が改正され、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保を図る趣旨から、自治体が発令する避難情報が増えられました。これまで災害発生情報、避難指示、避難勧告、避難準備などさまざまな情報で災害の警戒を知らせていましたが、近年の大雨・集中豪雨に伴う大規模災害において、避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生したり、避難勧告と避難指示の違いが、十分に理解されていなかったことの反省に基づくものです。5月20日からは、緊急安全確保、避難指示、高齢者等避難などの具体的な指示となり、避難指示では該当地域のすべての人が避難することになります。

今回の改正で災害が減少することを期待するばかりですが、「正常性バイアス」の働きは考慮しておかなくてはなりません。これまでそんな災害には遭遇していないので「ありえない」、「大丈夫」。そんな考えが避難の遅れにつながったと考えられる災害の事例はこれまでもたくさんあります。野外活動、特に不慣れな場所での活動の際には注意が必要です。「正常性バイアス」に陥らないためにも、日頃の訓練、そなえよつねに、が重要です。



出展：新たな避難情報に関するポスター・チラシ（内閣府）
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/poster.pdf

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会

